



最初にお読みください

CentreCOM® AR450Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR450Sをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M3069-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M3069-03 Rev.L）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.9.2-00

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.9.1-21 から 2.9.2-00 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 2.1 MAC ベース認証ポートに指定しているインターフェースをブリッジポートに指定すると、不正なユーザー名の認証リクエストが送出されていましたが、これを修正しました。
- 2.2 DHCP クライアント機能使用時、DHCP サーバーから新しい DNS サーバーアドレスを通知されても DNS サーバリストを更新せず、以前に通知された DNS サーバーアドレスを使い続けていましたが、これを修正しました。
- 2.3 RIP 使用時、スタティック経路が削除されても該当経路をメトリック 16 で通知していましたが、これを修正しました。
- 2.4 RIP 使用時、インターフェースがリンクアップしてもトリガーアップデートを送信しませんでした。これを修正しました。
- 2.5 RIP 機能において、複数に分割された RIP response パケットを正常に受信することができず、最初の 1 パケットのみしか受信することができませんでしたが、これを修正しました。
- 2.6 OSPF ルーターとして動作する場合、LSA を作成、通知を行った後、同じ LSA を再度通知することによって、一時的な LSA の不一致が発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.7 ファイアウォールポリシーに MAC アドレスリストを登録するとき、先頭文字が a～f の MAC アドレスが登録されませんでした。これを修正しました。
- 2.8 ダブル NAT を使用した状態で WAN インターフェースをリンクダウンさせ、ダブル NAT ルールに合致する通信を行うと、本製品がリポートする場合がありますが、これを修正しました。

- 2.9 ファイアウォール有効時に RTSP の Continuation パケットの遅延が発生し、動画配信が止まることがありましたが、これを修正しました。
- 2.10 DHCP レンジの範囲外にある IP インターフェースで DHCP Discover メッセージを受信したとき、dhcpRangeExhaustedTrap トラップ（プライベート MIB）を送信していましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項・注意事項

ファームウェアバージョン 2.9.2-00 には、以下の制限事項や注意事項があります。

3.1 IPv6

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**


ガーベージコレクションタイマーが動作中の RIPng 経路は、新しいメトリック値を持つ経路情報を受信しても、タイマーが満了するまで経路情報を更新しません。

3.2 ファイアウォール

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」**

- ファイアウォールにてリモート IP を指定せずにダブル NAT ルールを設定すると、ルーターがすべての Gratuitous ARP に対して応答してしまうため、Host にてアドレス重複を検出し、通信できないことがあります。
- ファイアウォールにて動的に IP アドレスが割り当てられるインターフェースを Public インターフェースとして設定した際、ルール NAT の GBLIP パラメーターに "0.0.0.0" を設定すると、NAT 後のソースアドレスが Public インターフェースの IP ではなく、"0.0.0.0" に変換されるためパケットを送信しません。

3.3 L2TP


 **「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」**

- ADD L2TP USER コマンドで ACTION パラメーターに dnslookup を指定し、PREFIX パラメーターは未設定とした場合、設定を保存し、再起動するとコンフィグエラーになります。これを回避するには、再起動トリガーで ADD L2TP USER コマンドを再入力してください。
- L2TP トンネルを介し、ICMP host Unreachable となるパケットを 300pps を超えるレートで受信すると、受信エラーカウンターが増加し、L2TP トンネルが切断されます。

4 コマンドリファレンスの誤記訂正

コマンドリファレンス（J613-M3069-03 Rev.L）の誤記訂正です。

4.1 SET OSPF コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御（OSPF）」**

コマンドリファレンスに記載のパラメーターの説明について、以下のように訂正してお詫びします。

SET OSPF コマンド DEFROUTE パラメーター

【誤】 DEFROUTE: デフォルトルート (0.0.0.0) の AS 外部 LSA を生成し、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

【正】 DEFROUTE: ASBR に手動でデフォルトルートを設定していない場合に、ASBR をデフォルトルート (0.0.0.0) として AS 外部 LSA を ASBR 自身に生成させ、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

5 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書 (J613-M3069-00 Rev.A) とコマンドリファレンス (J613-M3069-03 Rev.L) は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「J613-M3069-03 Rev.L」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>